

事業名

黒沢中学校 拡大同窓会

事業費（予算額）：1,800,000 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：500,000 円）

P

・事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

黒沢地域のこれからの暮しが心配です。地域は超高齢化を反映し人口減少が甚だしく、疲弊しきっています。広大な私たちの地域（40km以上）には、保育所も小学校や中学校そしてお店も全くありません。もちろん病院や農協・駐在所等の公的機関もありません。ここ黒沢では子育ても叶わず、若者が暮らすにはあまりにも厳しく**極端な生活不利地**です。しかし、この状態でも、手をこまねているわけにはいきません。何か**打開策**があるはずです。そこで、ひらめいたことが、黒沢がふる里の、日本中の人々に助けをを求めることでした。条件の悪さを最も理解されている方々との交流を始めよう。・・・その糸口が黒沢中学校の拡大同窓会です。

計り知れないお土産が期待できます。都会からのアドバイスやふる里応援団が出来ればとの思いもあり、計画しました。

D

・事業の概要

黒沢中学校の卒業生は、第1期生（昭和22年度卒）から閉校になった昭和50年度までの29期です。当時の在校生を合わせますと31期827名です。近隣の卒業生約50人で実行委員会を立ち上げ、連絡が取れた人586名に案内状を送付しました。結果として430名から懐かしいコメントが届きました。そして都合をつけることが出来た、215名と関係者を含めて、230名が母校に集いました。

当日は、地元神楽団による神楽上演や校歌を合唱するなどして親交を深めました。また、遠方からの帰郷者に配慮し、公民館で宿泊できるよう準備しました。

今は、お家も田畑も何も無い方々がほとんどです。50年ぶり・70年ぶりの声で会場は別世界。感激と嬉しさで、言葉が見つかりません。この取り組みによって、素敵な未来が描けました。まず一つは、ふる里の風や香りに飢えているという、みなさんの心が透けて見えたことです。そして、ふる里に帰ったからこそ正直な自分を出されました。片意地を張らずにそのままの顔で。

C

・課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

									○	
--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

・上記評価の理由

- ◆この地域と縁が切れたと思われた人々との再会。
- ◆都会での苦労話から、癒しの場を見つけられた。
- ◆ふる里（黒沢）を応援したいという姿が見えた。
- ◆ふる里産品に目が向き、欲しがる声に応える意欲が生まれた。
- ◆当初のねらいである「ふる里サポーター」としての動きが見えてきた。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと

（評価を10に近づけるために）

- ◆都会地に住む、同郷者との交流を深める必要がある。
- ◆ふる里のお米や野菜、そして山菜や加工品等を届けてほしいという声があったので、その声に応える体制づくりを急ぐ必要がある。
- ◆子供や孫世代と繋がるための策の強化づくりが特に必要である。

